嘯月菴
友昇著

横濱地名案内 全

ル 4
4736

門ル1
號 4736
卷

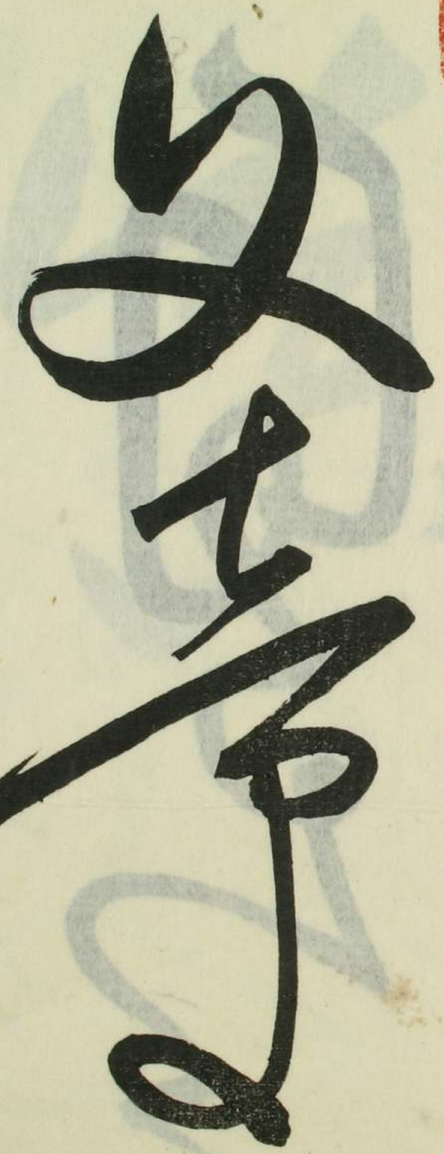
森田友昇著

横濱地名案内 全

明治八年十二月十四日
版權免許

森田藏版

東京都立中央図書館蔵書



時天寶十一年
第二十八日
三秉子生敬題

題言
八景之
横演一
不封斯人
祝收拾之為

冊告圖播遠
近持老曠然
思亡亭高今
畫等地名徐

加以人事世
箴讽斯人庶
幾事業與經也
是編播小說

歲乙亥之冬西
壽國友貞
槐山藤序

序

凡史冊之可觀者
不翅詞章之爲美
實係風雅之興與

人才〻設焉耳。
皇國當嘉永年間。
闢橫濱地而許外
國通商矣爾来

制山埋海鑿川架
橋開阡陌千四方成一
都會焉蓋所由風
土〻変與人才〻設之如

於是友昇森田翁
嘗著本邦地理且
撰八景圖以冠之蓋其
爲製也纂拾所彙

摘名高業而至于
八景以詩歌俳句收拾
風尚麗爲一卷題曰
横濱地名案内其意

亦勤矣是編一出則
俾男女老幼之易讀
率巷陌市井置
遂致紙價騰貴

固不無一言也而世於人
人有語引之益果
何如如余先生翻文深
輯之者故特贅之

謂義以贈之云。

明治八年乙亥十二月

梅花平穿真實述

山陰世貫石書

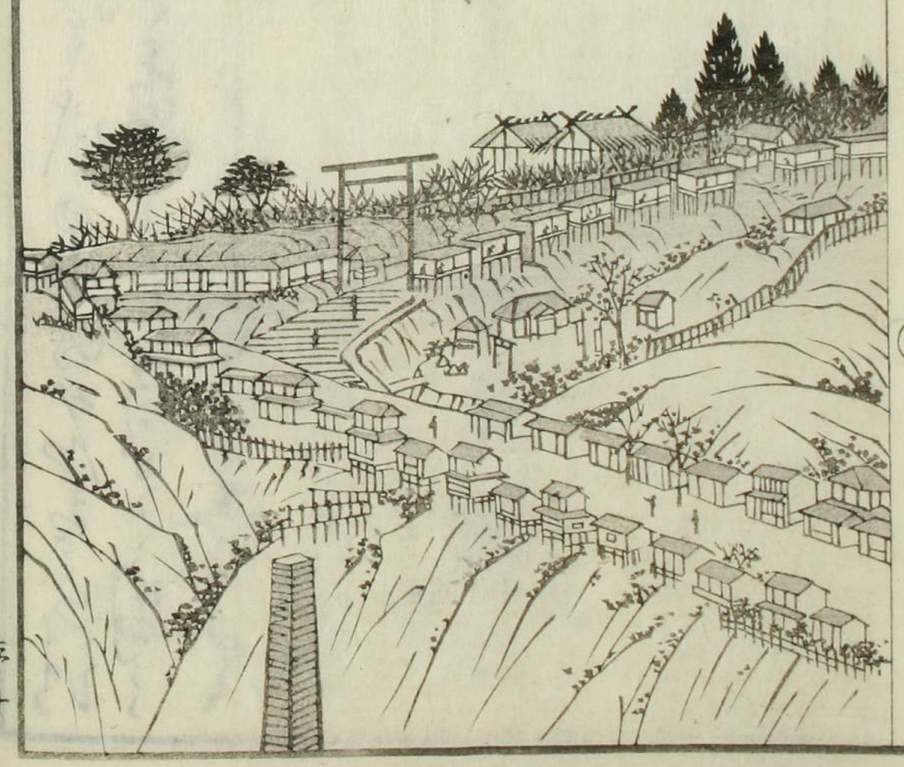
序

[illegible]

伊勢山秋月

勢山空際聳峥
嶸遥仰神靈表
至誠萬古照臨
清夜月十分秋
色一輪明

小原芝軒



鳥屋亮信

秋堅山そそりの示　左南

高一山楽北月
月そなたく海も
そそりたる

陸山の郡竹村

そそりたり高く
月を秋弧山

極屋

少磐

海面月
まさく白き鳥飛ん

秋風の吉　四方山や秋の月　為山

本牧晴嵐　　柏井信堂

春山如笑海心涵匹似
少文爲畫談幾箇歸舟
煙樹際夕陽蒸出忽成
嵐

鈴木重元

海辺の柳　伍真

本牧や
雨を書
[illegible]
[illegible]

又[illegible]　玉文

伍柳

山々は雲　去海
去[illegible]
[illegible]

淺間山

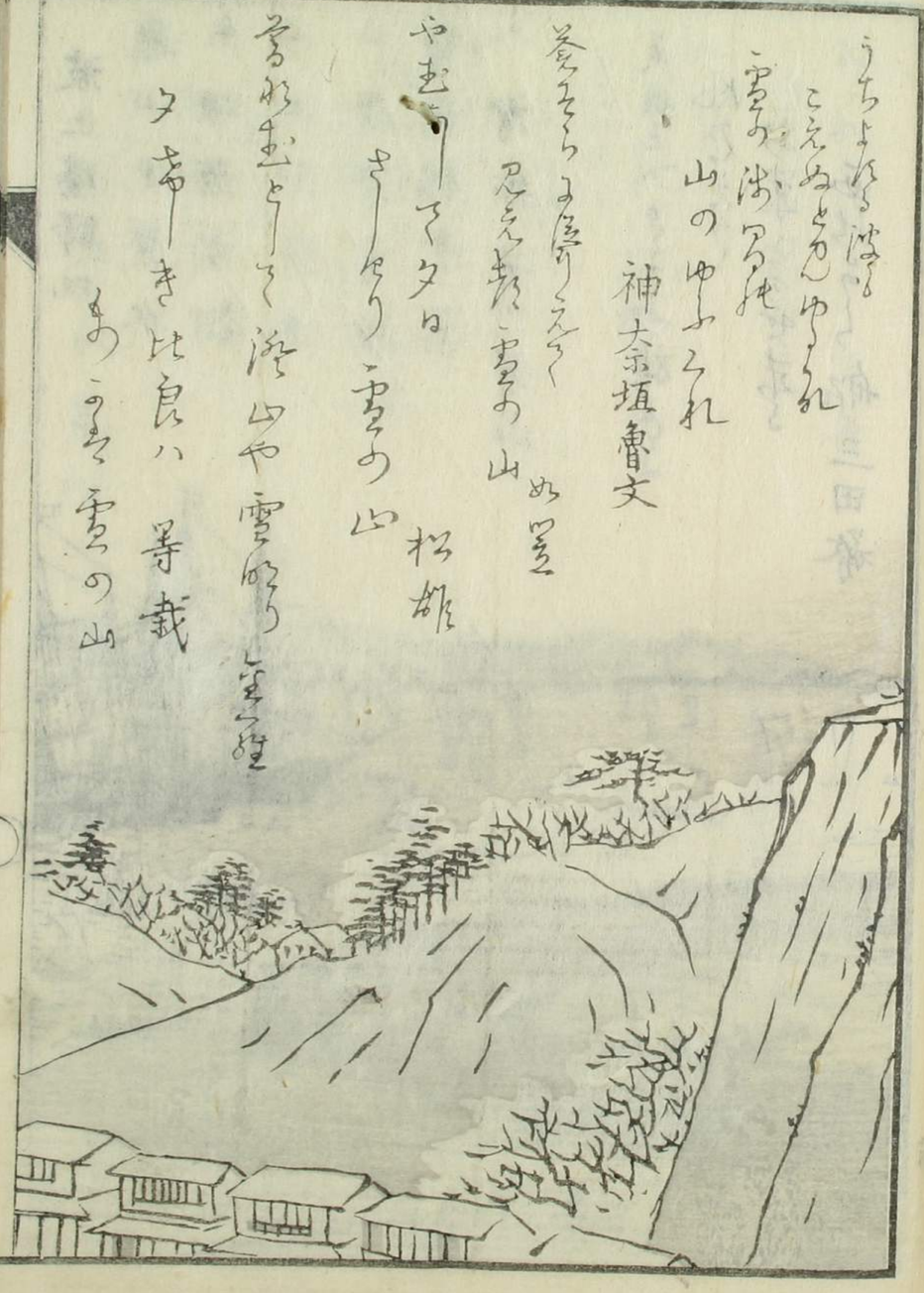
暮雪

下瞰横濱
數萬家粉
牆極壁競
豪華江風
日暮吹瓊
雪臺上寒
林又著花

諸葛蘭谷

雪の淺間山

神奈垣魯文

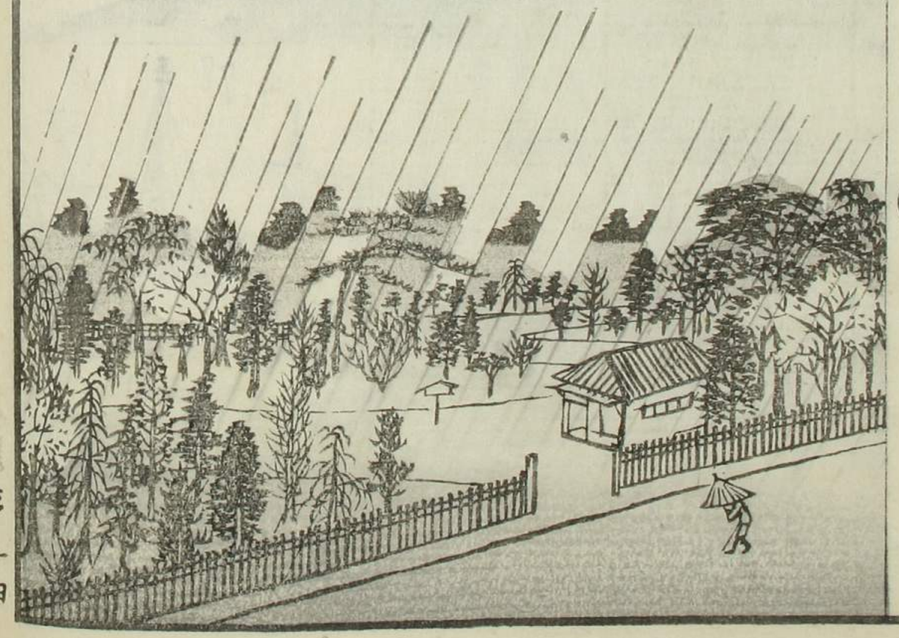


波止場歸帆

遠山光紫水
生煙潮雪翻
涼返照邊海
口幾聲雷砲
響萬檣来集
入灣船 笹川芳山

公園夜雨　加藤櫻園

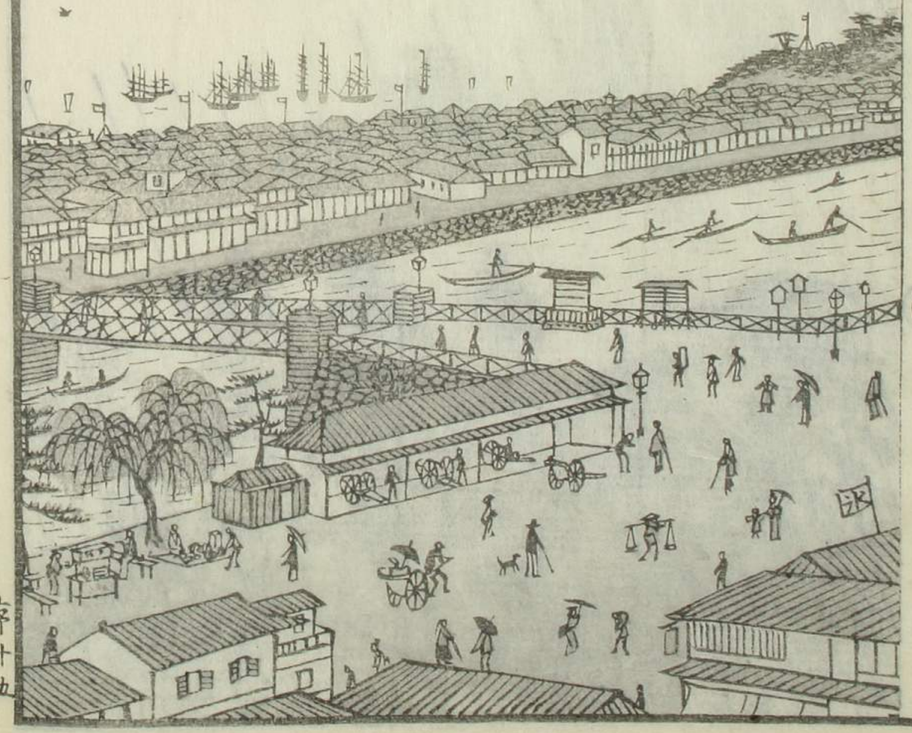
漠漠霏霏好雨
過添紅染綠草
芽多曉来猶帶
芳園濕花重風
前百尺柯



鐵橋夕照

大江潮湧水
涵空沿岸奮
揚送冷風客
過鐵橋先小
立一邊涼影
夕陽中　市川水哉

中ゝさは橋ゝ
ゝゝくゝゝゝゝゝ
橋ゆゝ人ゝの
傘ゝゝゝゝゝ
高橋壽世



吉田落雁　福田清魯

接影翩翩也作
行秋雲散盡夕
陽明江田水落
蒲塘濶聽断西
風數雁聲

入船の火屑　蘆名盛尊

吉田晴水

蘆水

雪友

長義

月朶

北方晩鐘　平塚梅花

寒霭纔収
便放晴峯
頭吐月影
初明鯨鐘
敲出那邊
寺急入山
風栗列聲

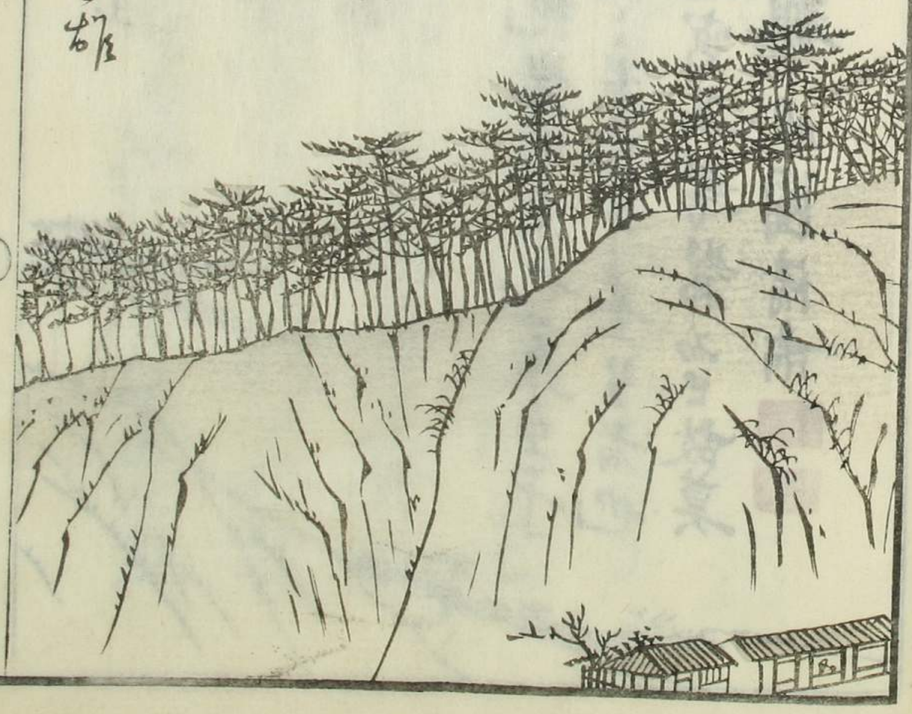
雪晴のそひやもゆるれも
こまの音
氷をなる
ひとつの池

加藤祐一

遠山雪　古麦

遠も消ゆ
中山小風

冬枯もゆの
おもく遠の雲
川筋や屋根い
これもかすの
寒雪
雪よ
遠の
ふる都



山水一名風景　陳定宇解玉

[illegible]

中山　[illegible]乃

[illegible]

[illegible]

泰西畫者窮盡精絶微妙者也蓋至于
和漢画也貴乎氣韻之者由筆畫生者也
今此於景圖者纔寫其髣髴而已故莫
爲氣韻與精微之觀　硯園清斎

つまあやまちをかしたるものの
やうにそこなはれたるものを
いたらるるはいかなるやう

新年玉

横濱地名案内

昨年八月廿七日の夕こゝに横濱
地市乃御八幡横丁
蔦屋八重の主人

岩見之志本所より小舟
南ゟ仲通り回米蔵所
と人の呼ふ舟を通り
弾左ゟ東をさして
横断ス業師船海
暮方ゟ日月ゟ
漁ゟの船出船路
ゟ東西沖止場
の行や輸出若物
運送の事新吉沖の

都の所を東の大時
計耳の寺に流
所源の海手に引網尓
雪寄る魚を
生と雪る鮫
鱗の地

御旗の風に靡くを
形を公園の梅未蕾
地の上の
雲の雪の
岩地振所
枕岩の

乃雷公織部家形象
替軒の表に掛み籠み法
人の往来を表に古国
所たるを事に幸ひ
り思ひの外に生所

水を自由に玉川を寺
家を引て住吉所に武
を所たるを常盤所松の
東を屋敷所雲
樹の名を寄一

書如生所漢の所
と長住所風雲を
福生所昔を生の橋
所織を霧や内国所
年暦中京三乃橋を

さけ乃を之を所生那
と日本外生自訓を留乗
古鼓と之国乃陽を
を之外自乃橋家源
き橋末所漢を霧

柳橋下り船
に乗り此の葉橋小舟
に乗り福島所に仰ら
れ橋旅の宿の糟屋
此あや色と新の宮や

美玉瓦斯此の中に拠
皇大御神
岩巣畏き
高き御稜威の万国へ
輝く月のごとく橋その
神風の伊勢の聖所や遷

寸四方の大石場所高川
所より百姓屋敷官舎より山
の麓に咲所に代
書屋敷所より新宅
百軒程の馬車地
通り毛利侯の邸
前を抜て人畜
馬車共に喧雷
坂を下る泥水の深
さ水まで和る
国道所々に藻

浪花なる淀くゝ山の
埋み濃まる紫の藤江の
芦原路元葛新玉橋大
平橋を顧みく芝生の里
や素れ家屋古寺

休らふ嶋も仰ぐ葉卯
茶川の茅葺軒小茅
ゝ茅も古やく篠葺たる
辨天橋よ大江橋渡り
嶋ゝ松樹嶋

這くら者共の子も日舟
ちらし仲社生条令
社や茅ちわ社北立
地刈い黒魂乃さも
ちれぬ学経也所地

婦ら北殺保深や瓦感
祝ふ子道事社廣生馬
車ち織の橋角力芝
居の徒ひも不き人
寄車の鮮堤出

晩望吉田所正国名
遊る桜屋所大宮人
の屋所宮ゝもまゝ
富士屋所袖ひき引ゝや
霜所桜ゝ木所のゝ影掛

きゝ来る潮騒所
須磨の浦所名ゝ
明ふ果所万代所や
夢所亀の尾を引山や
田所八束
種の福

冨所派多屋市左
衛所来吉所此寸ゑ此
たゑ教への書を三夫
所ゑ高ゑ多ぬ家柴
男ゑ嘆ゑる菊園

其世の義光名を源世
所新渡の戸を濱萩宮
此ゑ於ゑ伊勢時所
是戦所や四所山島
の屋ゑ長ゑ所ゑ相振

雲海の橋かゝる新地
竹所業の風流
日の出所丹の秀水笑
北面所天津雲女主
巖高富松の鳥船羽衣

所掛一例の松の枝
所橋の枝所来出夫
を待富嶋北祈言所氷
東岩井所雪を
裡に春地柳所こゝ孫

まゝ汁乃蔭遅業所吉図
所の謡花の事
貫玉児玉所堀所地
饒時くの瓶ヶ活ヶ英
所吉清水所初冥所

身襖ヶ拝志不勅高
清ゝ藩ヶ雲ヶ井所未
ゝ玉人地ゝ老所久才所
の見初ゝ高展土色
仰ゝ駿河所京ヶ

形人三吉所与書之
著る者裁判所家
の左所ハ甲乗ル
廻ル還ル車橋呉
服塗物黄漆ハ星賞

十三

ふ人北山本所沙弓山
の陣左毛
志石川所少ハまを由
巣西の橋やを為ル
谷戸橋ハ遣ル北方

之野所樹へ急く羅物
嶺や崖の武時所
をや名なる寄山松を
見ぬ東二本と三輪
所より行手を出源方

北森根峯東郷本牧
乃塙より齋〳〵十二天誓
見ぬ牛の馬競へ袖
掛あつる前橋背ひ
百雲織雲名

国饌を精作石識の柱
石義乃祭り祀る
天主堂幸を祈る
種の事ゆゆ高社
祝祭を横濱

法学校修業生徒
税寮業の法括る簿
調へ畫め学元の八百
万八十餘所橋ゝ
良ゝ誌横濱地

名案内と題する所なり

本邦児童初學之書

森田孝昇著

曉

二書ニ就テ

新雅

本邦児童初學ノ書之ヲ漢ニシテハ千字文三字經アリ之ヲ和ニシテハ都路歌字盡アリ其訊誦ニ便ニ紀臆ニ易フシテ髫齔ニ裨益スルヤ蓋亦少ナカラス然ヒ共其歸スル處識字ノ一端ニ過サルノミ豈之ヲ實學ト謂ンヤ

聖朝明治ノ天ヲ開キシヨリ庶績ノ熙々ハ言ヲ俟ス學制又一新務メテ虚ヲ去リ實ヲ取リ是ニ於テ乎都路ハ變シテ地理小學トナリ三字經ニ換ルニ單語篇ヲ以テス規模宏

恢諸科ノ楷梯具備矣然レ共實有テ華無シハ讀
者倦ミ易シ況ンヤ童蒙ヲヤ然ラハ文字ノ華ハ実
學ノ津涘ト謂フ可也本港ノ老佔友昇翁森田
氏俳歌ヲ善スルヲ以テ名アリ頃者一書ヲ著シ題シテ
横濱地名案内ト曰港内ノ街衢橋梁官廨ノ在所
商社ノ設ル所社寺製場仔細之ヲ載セテ漏スコナ
シ翁ノ此篇ニ於ル勉メタリト謂フ可シ夫我蜻蛉洲ノ
地球上ニ在ル唯彈丸黑子ヲ見ルノミ況ヤ其一港ニ

於ケル假令精細秋毫ヲ析ツモ其裨益スル所果シテ
幾許カアル然リト雖坤輿亦一尺土ノ多ノミ小以
大ニ及ホシ類ニ觸テ之ヲ長スルニ至テハ彼地学博
士ノ各國山川都府ヲ識スモ豈此篇ト途ヲ殊ニセン
ヤ然則童蒙苟シ地誌學海ノ航艦ヲ此横濱
案内ニ解テ以テ万國ノ地理ニ及ハヽ亦西人本土ノ誌史
ヲ先ニスルノ意ニ庶幾ラン況ンヤ此篇文辞簡雅訊
誦ニ便ニシテ能ク地理小学單語篇ノ實事ト都路

歌字畫ノ華文ナ兼又ルナヤ且ツ夫ノ國内各地ノ
衆估蠶商本港ニ輳マル者歳ニ幾千人ナルヲ知ラス
若此一冊ヲ展讀一過セハ港中ノ地名ヲ辨スルヲ得テ
其便亦大イナリ何啻童蒙ニ資スルト謂ンヤ

明治八年乙亥十有一月日

三　鳥外史

福田禄書

跋

古賢有言曰、君子之志於道也、不成
章、不達、又曰、充實、而有光輝、之謂大
矣、余之、伯父嘯月菴翁、舉一冊子、見
示之、余小子曰、天下復古、政令一途、
置府于三、開港于五、為縣于六十矣、
於是、出各地人才、開化換眼、文明排
意、著某某卷、而至于使讀者、坐知風

土之盛、洵為太平一創觀也、今伯父、著斯卷也、平生所交、遠近君子、稱之、貽以金玉之詠矣、嗚呼獲此、大增述作光輝、斐然成章、充實而達者歟、所謂、蒼蠅附驥尾、致千里者也、於余小子、寔堪雀躍、因書伯父之、志於道成章數字、以為親戚子孫寶、

乙亥之冬　海老澤謙齋述

神奈川縣平民
第一大區一小區横濱南仲通三丁目
四十一番地居住
著述
出版人
森田友昇

横浜市保土ヶ谷区宮田町三丁目
森林
貝正
11259b0